

第3節 救急活動の現況

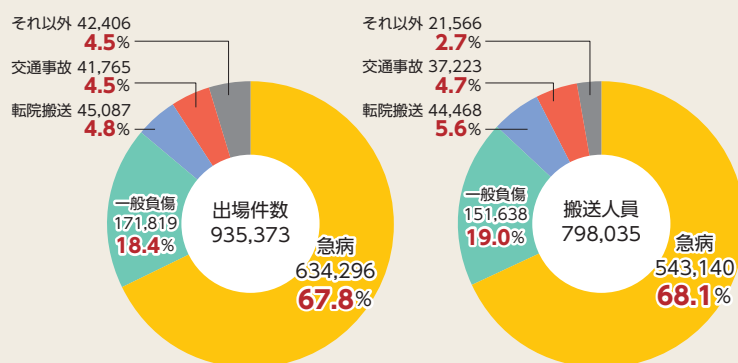
トピックス 12～15 ページ

～救急出場の状況と「#7119」の有効活用～

● 事故種別救急活動状況

区 分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
出場件数 (件)	935,373	41,765	3,773	5,667	18	551	6,030
搬送人員 (人)	798,035	37,223	611	5,570	11	239	5,902

● 救急出場件数の事故種別の内訳



● 隊別出場件数上位 10 隊【件】

救急隊名	件 数	1 日平均
大 久 保 救 急	4,711	12.9
芝 救 急	4,107	11.2
神 田 救 急	4,085	11.2
新宿御苑第1救急	4,076	11.1
高 輪 救 急	4,044	11.0
世 田 谷 救 急	4,003	10.9
城 東 第 1 救 急	4,001	10.9
新宿御苑第2救急	3,993	10.9
大 島 救 急	3,942	10.8
戸 塚 救 急	3,920	10.7

● 救護人員 【人】

区 分	救 護 人 員		
	総 数	搬 送	現場処置
令 和 6 年	799,325	798,035	1,290
令 和 5 年	775,669	774,370	1,299
増 減 数	23,656	23,665	▲ 9
増 減 率	3.0%	3.1%	▲ 0.7%

● 高齢者搬送人員 【人】

	65 歳以上計	65 歳～74 歳	75 歳以上
令 和 6 年	432,002	91,408	340,594
令 和 5 年	403,813	90,860	312,953
増 減 数	28,189	548	27,641
増 減 率	7.0%	0.6%	8.8%

● 出場件数の前年比較 【件】

区 分	総 数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
令 和 6 年	935,373	41,765	3,773	5,667	18	551	6,030
令 和 5 年	918,311	42,507	3,514	5,414	14	568	5,518
増 減 数	17,062	▲ 742	259	253	4	▲ 17	512
増 減 率	1.9%	▲ 1.7%	7.4%	4.7%	28.6%	▲ 3.0%	9.3%

● 搬送人員数の前年比較 【人】

区分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
令 和 6 年	798,035	37,223	611	5,570	11	239	5,902
令 和 5 年	774,370	38,034	618	5,329	5	259	5,399
増 減 数	23,665	▲ 811	▲ 7	241	6	▲ 20	503
増 減 率	3.1%	▲ 2.1%	▲ 1.1%	4.5%	120.0%	▲ 7.7%	9.3%

※割合、構成比(率)、増減率等の割合を示す数値及び指数を示す数値については、少数第2位又は3位を四捨五入しています。したがって、内訳の合計は必ずしも総数に一致しません。

1 救急出場の状況

(1) 救急活動総括表

■ 図表1-3-1 救急活動総括表

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送	資器材等輸送	医師搬送	その他
171,819	7,086	5,680	634,296	45,087	619	149	12,833
151,638	5,066	4,167	543,140	44,468	—	—	—

● 程度別搬送人員【人】

区 分	搬送人員	重症以上	中等症	軽 症
総 数	798,035	56,952	319,374	421,709
	100.0%	7.1%	40.0%	52.8%
急 病	543,140	41,068	226,163	275,909
	100.0%	7.6%	41.6%	50.8%
一般負傷	151,638	3,394	49,015	99,229
	100.0%	2.2%	32.3%	65.4%
転院搬送	44,468	9,271	31,326	3,871
	100.0%	20.8%	70.4%	8.7%
交通事故	37,223	1,095	7,174	28,954
	100.0%	2.9%	19.3%	77.8%
それ以外	21,566	2,124	5,696	13,746
	100.0%	9.8%	26.4%	63.7%

● 回転翼航空機による救急活動状況【件】

区 分	件 数
令和6年	302
令和5年	336
増 減 数	▲ 34

● 救急出場件数が3,500件以上の救急隊【隊】

区 分	隊 数
令和6年	97
令和5年	89
増 減 数	8

● 救急活動状況

区 分	出場件数	救急隊数(隊)	1日平均(件)	1隊平均(件)	1隊1日平均(件)	出場頻度
通 常	915,395	275	2,051	3,329	9.1	35秒に1回
デ イ タ イ ム	12,202	14	49	872	3.5	
非 常 用	7,474	—	—	—	—	—
回転翼航空機	302	—	—	—	—	—

※航空機動及び各方面本部機動は非常用に計上。

※救急隊数は令和6年12月31日現在の数で集計。

※令和6年中の日数は366日、うち平日は248日で集計。

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送	資器材等輸送	医師搬送	その他
171,819	7,086	5,680	634,296	45,087	619	149	12,833
162,950	7,332	5,475	629,395	42,814	618	168	12,024
8,869	▲ 246	205	4,901	2,273	1	▲ 19	809
5.4%	▲ 3.4%	3.7%	0.8%	5.3%	0.2%	▲ 11.3%	6.7%

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送
151,638	5,066	4,167	543,140	44,468
142,610	5,081	4,007	531,121	41,907
9,028	▲ 15	160	12,019	2,561
6.3%	▲ 0.3%	4.0%	2.3%	6.1%

- ・死亡 …… 初診時死亡が確認されたもの
- ・重篤 …… 生命の危険が切迫しているもの
- ・重症 …… 生命の危険が強いと認められたもの
- ・中等症 …… 生命の危険はないが入院を要するもの
- ・軽症 …… 軽易で入院を要しないもの

(2) 過去5年間の推移

令和2年から令和6年まで過去5年間の東京消防庁の救急出場件数の推移及び令和5年中における全国の出場件数は次のとおりです（令和6年4月1日現在、全国救急隊数5,415隊、救急車台数（非常用含む）6,640台）。

■ 図表1-3-2 過去5年間の出場件数等の推移

区 分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	全国（R5）
出場件数（件）	720,965	743,703	872,075	918,311	935,373	7,638,558
1日平均件数（件）	1,970	2,038	2,389	2,516	2,556	20,928
出場頻度（秒）	44	42	36	34	34	4.1

(3) 日別最多出場件数

令和6年中の年間出場件数は過去最多を更新しました。

出場件数を日別にみると、夏季冬季それぞれの上位5位のうち、合わせて8日が令和6年の記録に更新されました。（図表1-3-3、4）

■ 図表1-3-3 日別上位出場件数（夏季5位、夏季以外5位）

順位	年月日	出場件数（件）	熱中症疑い	最高気温
1	平成30年7月23日（月）	3,382	熱中症疑い（411人）	39.0℃
2	令和6年7月8日（月）	3,373	熱中症疑い（303人）	36.0℃
3	令和6年7月29日（月）	3,283	熱中症疑い（279人）	37.3℃
4	令和4年7月1日（金）	3,274	熱中症疑い（390人）	37.0℃
5	令和6年7月22日（月）	3,214	熱中症疑い（211人）	36.6℃

順位	年月日	出場件数（件）	気候の特徴
1	令和6年12月28日（土）	3,333	最低気温1.4℃（積雪0cm）
2	令和6年12月27日（金）	3,296	最低気温3.8℃（積雪0cm）
3	令和6年12月23日（月）	3,260	最低気温2.4℃（積雪0cm）
4	令和6年12月29日（日）	3,253	最低気温0.5℃（積雪0cm）
5	令和6年12月21日（土）	3,220	最低気温2.8℃（積雪0cm）



熱中症の予防対策を！

高温・多湿・直射日光を避ける！

エアコン等を利用して、室内の温度を調整しましょう。また、服装を工夫して通気を良くしたり帽子や日傘を使用しましょう。

水分補給はこまめに計画的に！

のどが渴いてから水分補給をするのではなく、意識的に水分補給を心がけましょう。

暑さに身体を慣らしていく！

ウォーキングなど運動をすることで汗をかく習慣を身に付けるなど、暑さに強い体をつくりましょう。

■ 図表1-3-4 過去5年間の熱中症救急搬送人員数

年	搬送人員（人）
令和2年	5,955
令和3年	3,594
令和4年	6,321
令和5年	7,517
令和6年	8,278

(4) 地域別救急出場件数

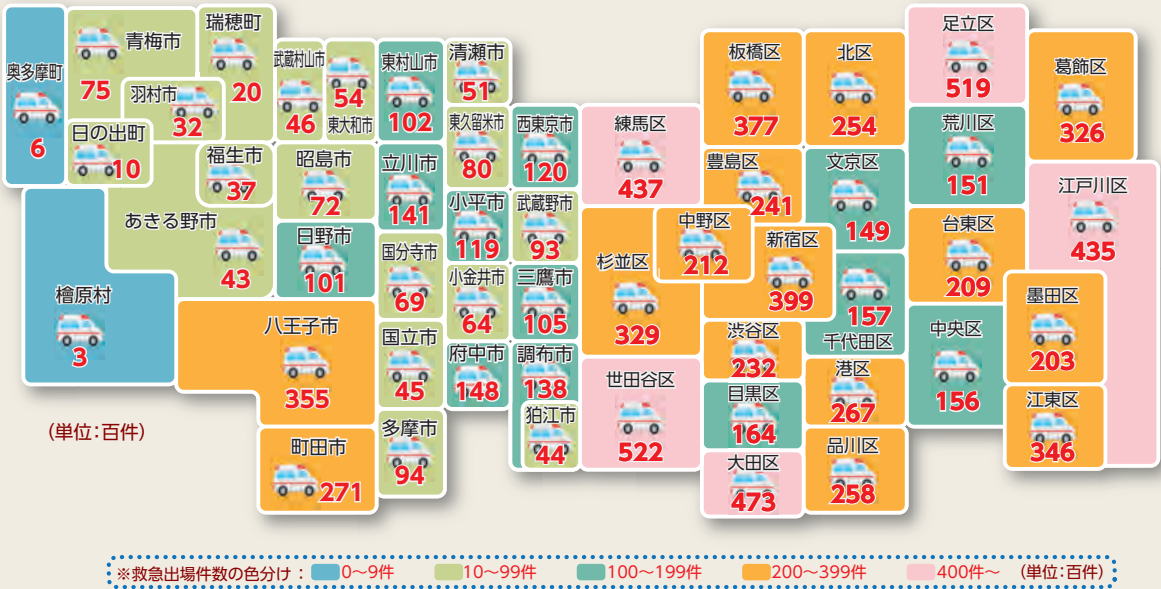
令和6年中、23区で救急出場件数が多いのは世田谷区、多摩地区で救急出場件数が多いのは八王子市となっています。各区市町村別の救急出場件数は、「附属資料4 統計表(306ページ)」をご覧ください。

■ 図表1-3-5 地域別出場件数上位5位

23区	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年	
	区	件数	区	件数	区	件数	区	件数	区	件数
1	足立区	41,227	足立区	42,443	足立区	50,057	世田谷区	51,224	世田谷区	52,208
2	世田谷区	40,501	世田谷区	41,962	世田谷区	48,574	足立区	50,469	足立区	51,910
3	大田区	37,167	大田区	38,446	大田区	43,440	大田区	46,672	大田区	47,328
4	江戸川区	35,550	江戸川区	36,020	江戸川区	41,464	江戸川区	42,748	練馬区	43,665
5	練馬区	34,035	練馬区	35,595	練馬区	41,072	練馬区	42,208	江戸川区	43,524

多摩地区	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年	
	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数
1	八王子市	27,735	八王子市	28,521	八王子市	34,139	八王子市	35,170	八王子市	35,538
2	町田市	19,763	町田市	20,950	町田市	24,628	町田市	25,925	町田市	27,068
3	府中市	11,451	府中市	11,584	府中市	13,837	府中市	14,572	府中市	14,794
4	立川市	10,717	立川市	11,111	立川市	13,167	立川市	14,023	立川市	14,130
5	調布市	10,468	調布市	11,069	調布市	12,690	調布市	13,561	調布市	13,841

■ 図表1-3-6 区市町村別救急出場件数(概数)の状況(令和6年中)





救急機動部隊

救急需要に合わせ、 待機場所を変更する救急隊

消防署に待機している通常の救急隊と違って、時間帯等によって変化する救急需要に合わせ、待機場所を変更する救急隊です。救急需要の高い場所付近に待機することで、早く現場に駆けつけることができますとともに、感染症、NBC災害、多数傷病者等、様々な救急事案に対応します。

令和元年10月に部隊を拡充し、日中は丸の内及び幡ヶ谷の各エリアに、夜間は新

宿及び六本木の各エリアにそれぞれ2隊の救急隊が待機しています。

さらに、令和6年10月にデイトタイム救急隊が1隊増強され、救急需要に対応しています。



救急車ひっ迫アラート

救急車ひっ迫アラートとは

救急要請が増加し、非常用救急小隊の編成が必要となる場合等、救急出場体制のひっ迫度合いをお伝えするとともに、救急車の適時・適切な利用を強く訴えかけることを目的としています。

令和6年中の東京消防庁救急隊の出場件数は、前年から17,062件増え、935,373件でした。また、救急搬送された方のうち初診時医師により軽症（軽易で入院を要さないもの）と判断された割合は52.8%で半数以上を占めています。

救急車がひっ迫すると…？

救急出場件数が過去最多の令和6年は、救急車が現場に到着するまでに平均で8分59秒かかっています。

救急車の要請が多く、近くの救急車が出場している場合、遠くにいる救急車が出場することになり、到着までに時間がかかる場合があります。

↓救急車ひっ迫アラートが発令されていることを示しています



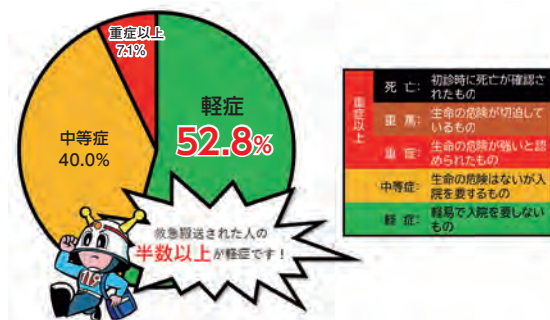
↓救急車ひっ迫アラートを発令する可能性が高まっていることを示しています



↓救急車ひっ迫アラートが発令されていないことを示しています



▲ 救急車ひっ迫アラート

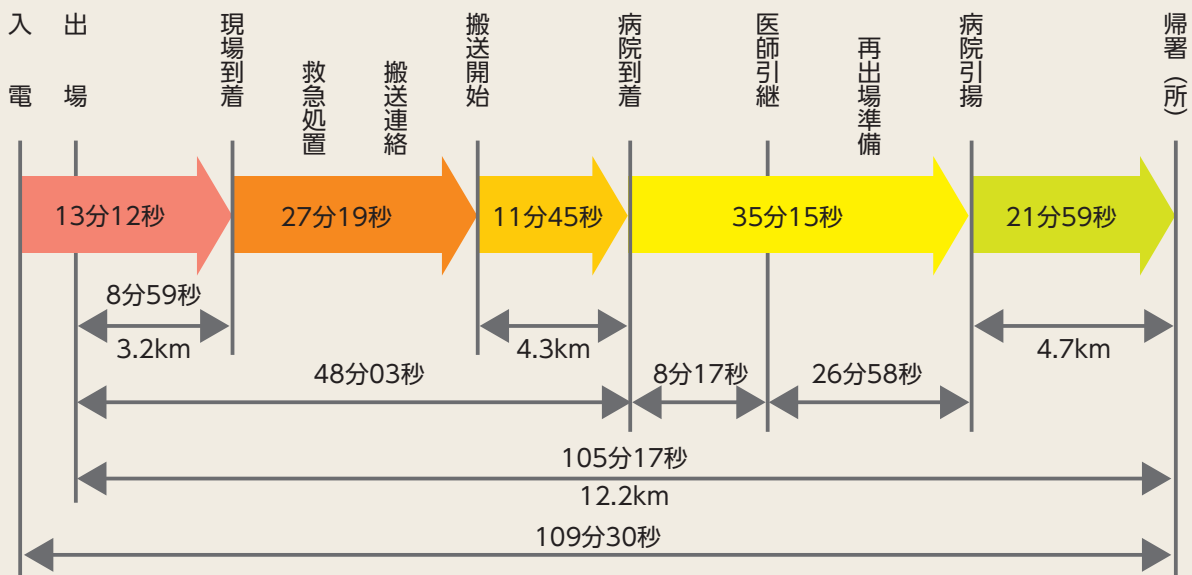


▲ 救急搬送された人の半数以上が軽症です

(5) 活動時間・距離

令和6年中の救急隊が入電してから帰署(所) するまでの救急活動平均所要時間は109分30秒で、平均走行距離は12.2Kmです。(図表1-3-7)

■ 図表1-3-7 救急活動時間と走行距離



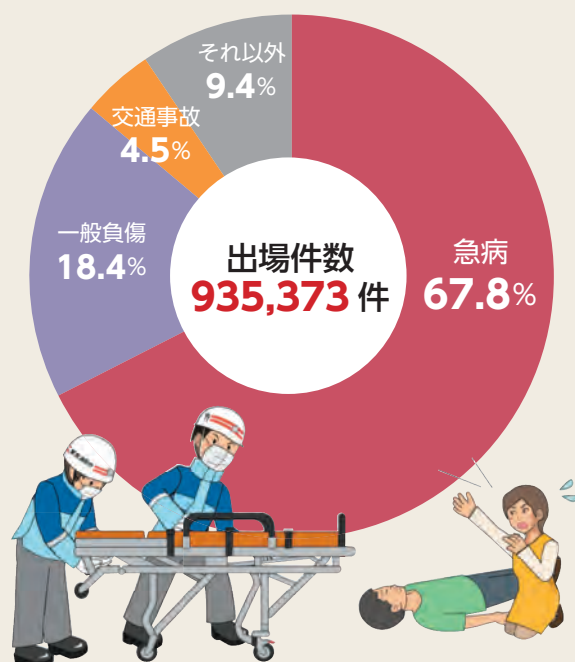
(6) 事故種別ごとの出場件数

急病、一般負傷、交通事故で全救急出場件数の約9割を占めています。(図表1-3-8)

■ 図表1-3-8 事故種別出場件数

事故種別	件数	割合
急病	634,296	67.8%
一般負傷	171,819	18.4%
交通事故	41,765	4.5%
それ以外	87,493	9.4%
合計	935,373	100.0%

「それ以外」の内訳	件数	割合
転院搬送	45,087	51.5%
自損行為	7,086	8.1%
労働災害事故	6,030	6.9%
加害	5,680	6.5%
運動競技事故	5,667	6.5%
火災事故	3,773	4.3%
資器材等輸送	619	0.7%
水難事故	551	0.6%
医師搬送	149	0.2%
自然災害事故	18	0.0%
その他(上記以外)	12,833	14.7%

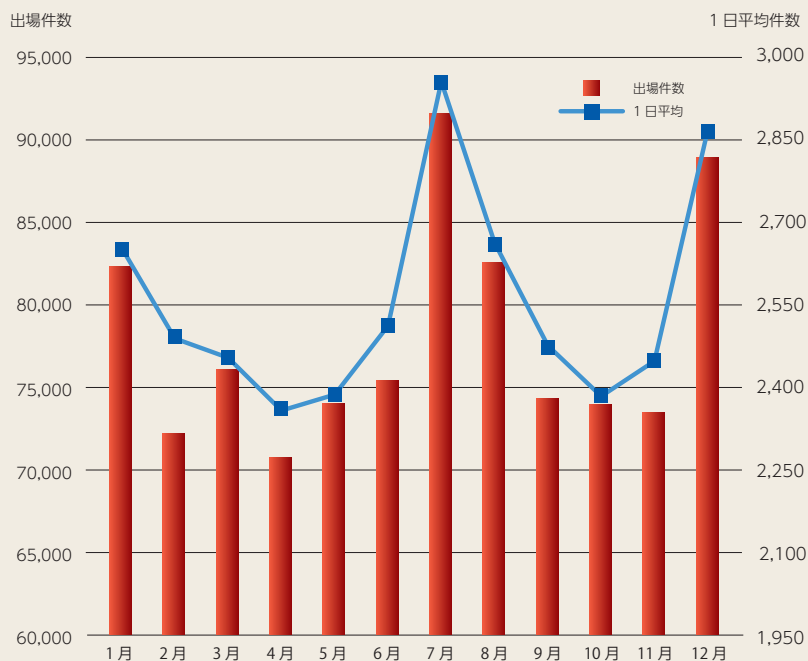


(7) 月別・時間帯別出場件数

ア 月別

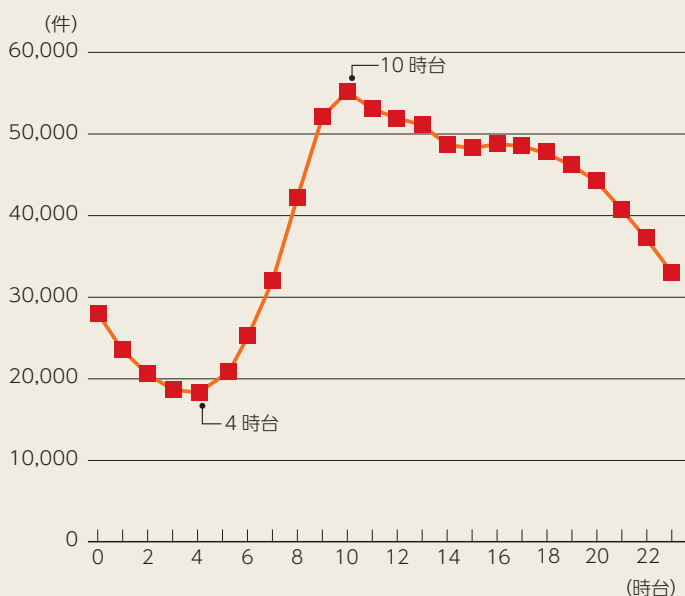
■ 図表1-3-9 月別出場件数

月	出場件数	1日平均
1月	82,286	2,654
2月	72,190	2,489
3月	76,073	2,454
4月	70,728	2,358
5月	74,003	2,387
6月	75,365	2,512
7月	91,623	2,956
8月	82,560	2,663
9月	74,277	2,476
10月	73,912	2,384
11月	73,454	2,448
12月	88,902	2,868
合計	935,373	2,556



イ 時間帯別

■ 図表1-3-10 時間帯別出場件数



時間帯	出場件数	構成比(%)
0 時台	27,916	3.0
1 時台	23,557	2.5
2 時台	20,562	2.2
3 時台	18,702	2.0
4 時台	18,304	2.0
5 時台	20,804	2.2
6 時台	25,254	2.7
7 時台	32,006	3.4
8 時台	42,149	4.5
9 時台	52,082	5.6
10 時台	55,053	5.9
11 時台	53,053	5.7
12 時台	51,857	5.5
13 時台	51,051	5.5
14 時台	48,663	5.2
15 時台	48,209	5.2
16 時台	48,801	5.2
17 時台	48,523	5.2
18 時台	47,766	5.1
19 時台	46,222	4.9
20 時台	44,180	4.7
21 時台	40,728	4.4
22 時台	37,233	4.0
23 時台	32,698	3.5
合計	935,373	100.0

コラム

デイトタイム救急隊

デイトタイム救急隊の概要

- 現場到着時間を分析すると、夜間と比較し、日中は長くなる傾向にあります。
⇒日中の救急需要が多い地域で現場到着時間を短縮
- 令和元年5月に池袋消防署で運用を開始し令和7年4月1日現在、14隊で運用しています。
- 育児休業期間終了後等の救急資格を保有する職員が、職場復帰後、すぐに交替制（24時間）の救急隊へ勤務することは必ずしも容易ではありません。
⇒交替制勤務が困難な救急資格を有する職員の活躍
- 池袋デイトタイム救急隊に電気救急車（EV）を初めて導入
車両には、電動ストレッチャー等を備え、体格の大きな傷病者や重体重の傷病者への対応力を強化しています。



▲ 車両



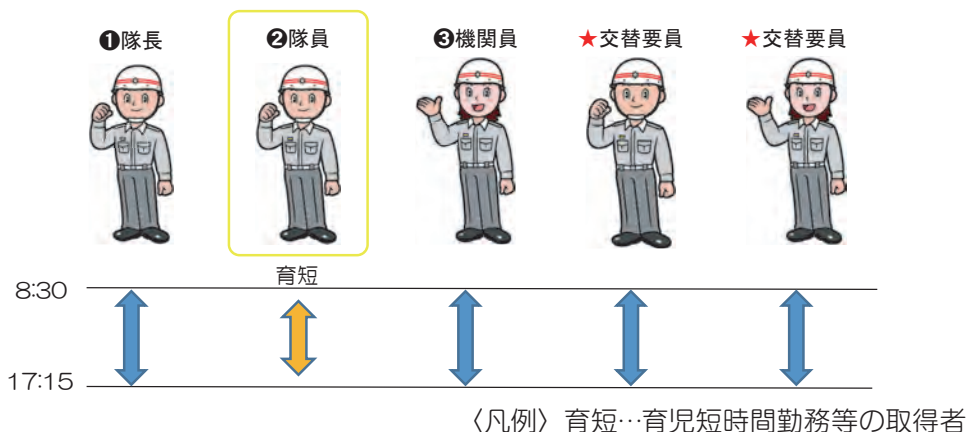
▲ 電動ストレッチャー

運用イメージ（1隊5名配置の一例）

○運用時間

平日の8時30分から17時15分までの間

5名配置構成例

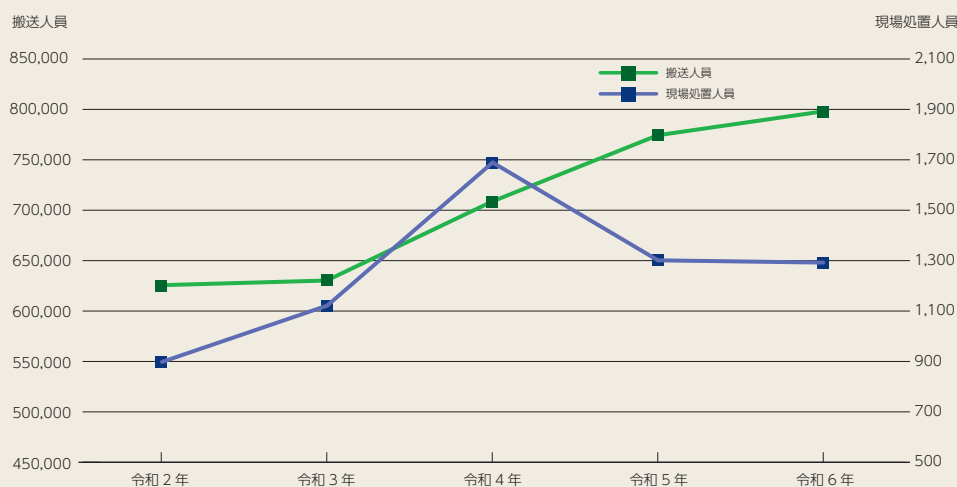


2 救護・搬送人員の状況

(1) 救護・搬送人員過去5年間の推移

令和6年中の搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は798,035人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は1,290人となり、合わせた救護人員は799,325人となっています。（図表1-3-11）

■ 図表1-3-11 救護・搬送人員の推移【人】



	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
搬送人員	625,639	630,287	708,695	774,370	798,035
現場処置人員	897	1,120	1,686	1,299	1,290
救護人員計	626,536	631,407	710,381	775,669	799,325

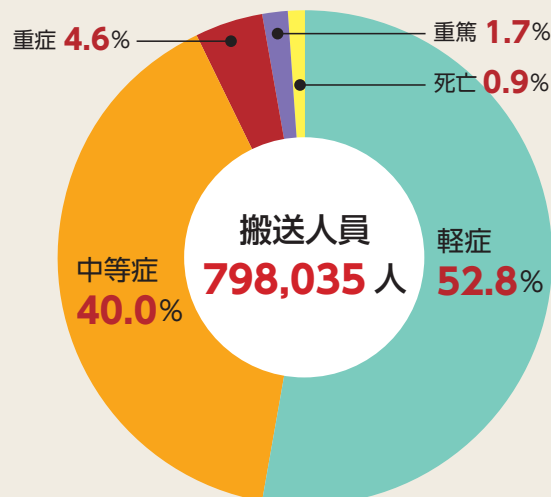
(2) 搬送人員

ア 初診時程度

搬送人員のうち半数以上が軽症で、中等症と軽症を合わせると9割を超えています。（図表1-3-12）

■ 図表1-3-12 初診時程度別搬送人員

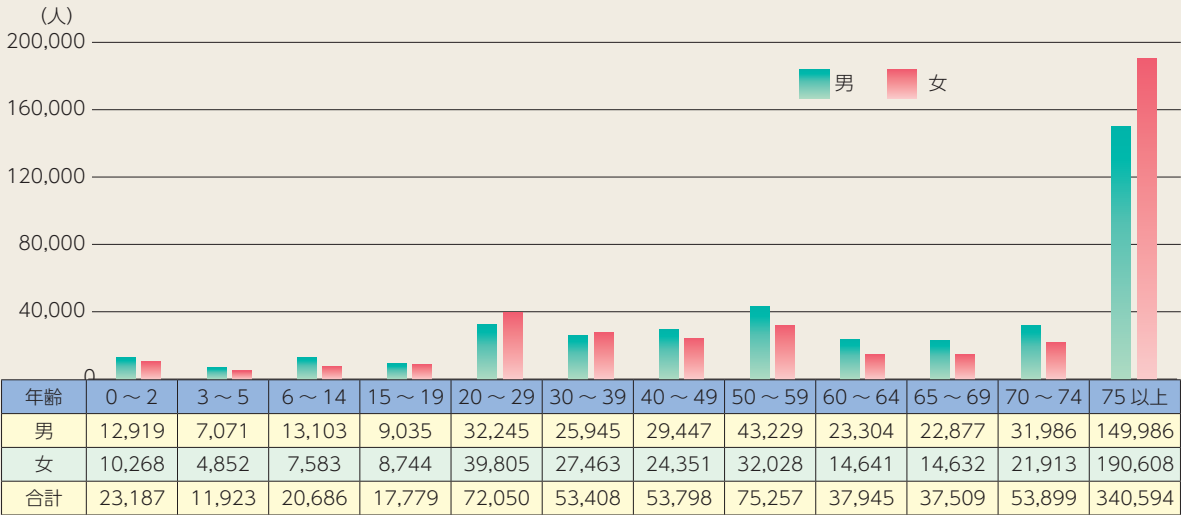
初診時程度	搬送人員 (人)	割合
軽症	421,709	52.8%
中等症	319,374	40.0%
重症	36,427	4.6%
重篤	13,645	1.7%
死亡	6,880	0.9%
搬送人員計	798,035	100.0%



イ 年齢層

令和6年の搬送人員を年齢層別でみると、75歳以上の割合が最多となっています。
(図表1-3-13)

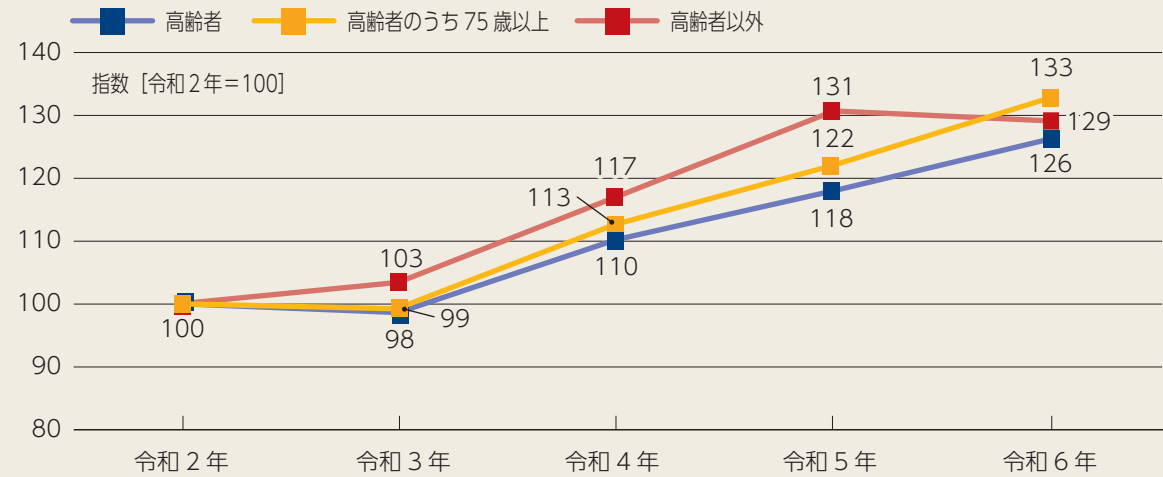
■ 図表1-3-13 年齢層別・性別搬送人員



ウ 高齢者搬送人員過去5年間の推移

65歳以上の高齢者の搬送人員は、432,002人で、全搬送人員の54.1%を占めています。
(図表1-3-14)

■ 図表1-3-14 高齢者搬送人員の推移



	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全搬送人員	625,639	630,287	708,695	774,370	798,035
高齢者	342,085	337,224	376,868	403,813	432,002
高齢者のうち75歳以上	256,451	254,273	288,752	312,953	340,594
高齢者以外	283,554	293,063	331,827	370,557	366,033
高齢者の割合	54.7%	53.5%	53.2%	52.1%	54.1%

3 都民等による応急手当の実施状況

(1) 救命講習受講者の推移

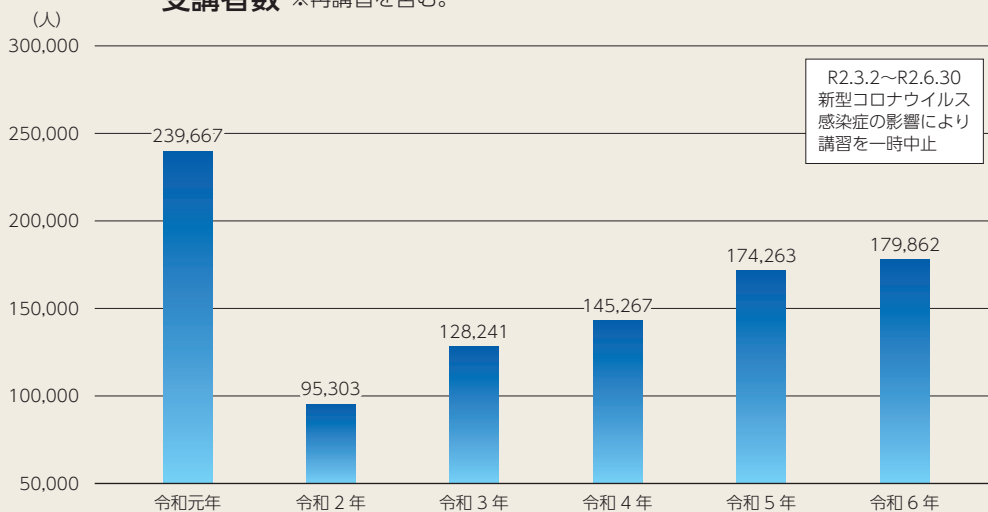
令和6年中は、救命講習(普通救命講習[※]・上級救命講習[※]・応急手当普及員講習[※])の受講者数は179,862人となりました。また、応急救護講習等を含めると378,792人となりました。(図表1-3-15、16)

救急現場に居合わせた人(バイスタンダー)の目撃がある心臓機能が停止した

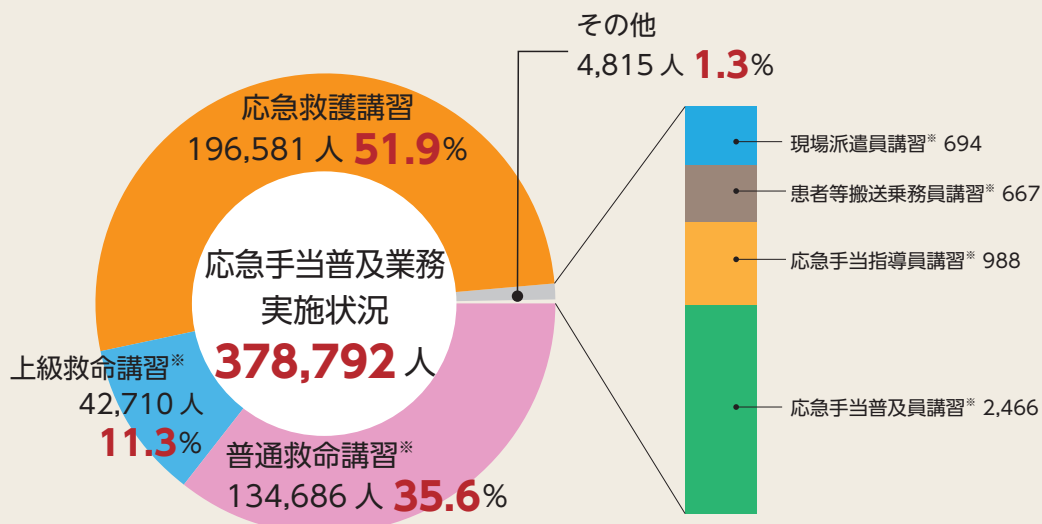
傷病者に対しバイスタンダーが胸骨圧迫やAED等による応急手当を実施した場合と実施しなかった場合では、傷病者の1ヶ月後の生存率は約3倍の差が生じています(令和6年中)。救命講習を受講し、応急手当の知識を身につけましょう。

※再講習を含む。

■ 図表1-3-15 救命講習(普通救命講習[※]・上級救命講習[※]・応急手当普及員講習[※])受講者数 ※再講習を含む。



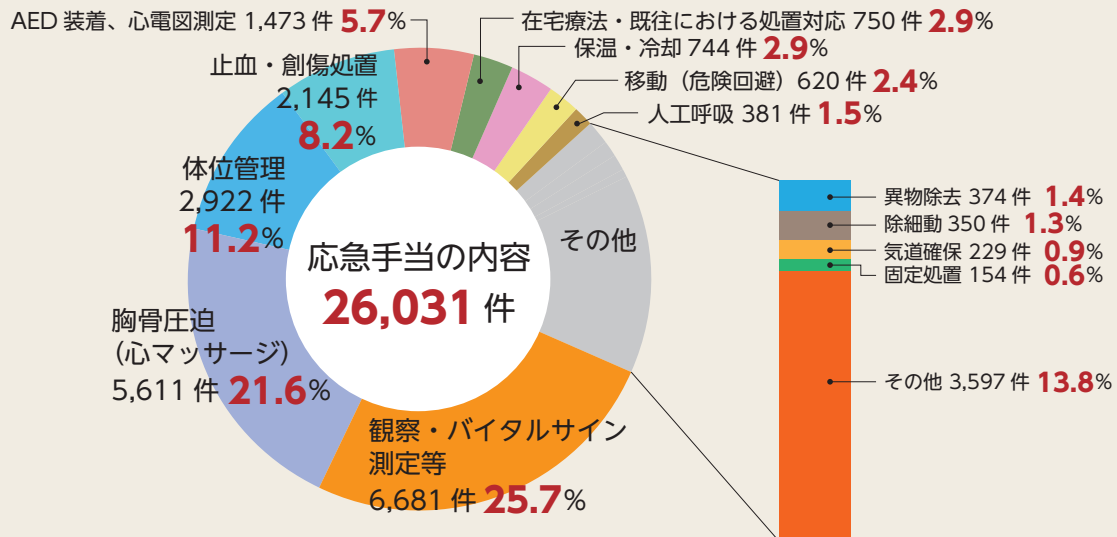
■ 図表1-3-16 応急手当普及業務実施状況 ※再講習を含む



(2) 応急手当の状況

傷病者に対して、家族、友人、近隣者などにより、救急隊が到着するまでの間に、26,031件の応急手当が実施されています。(図表1-3-17)

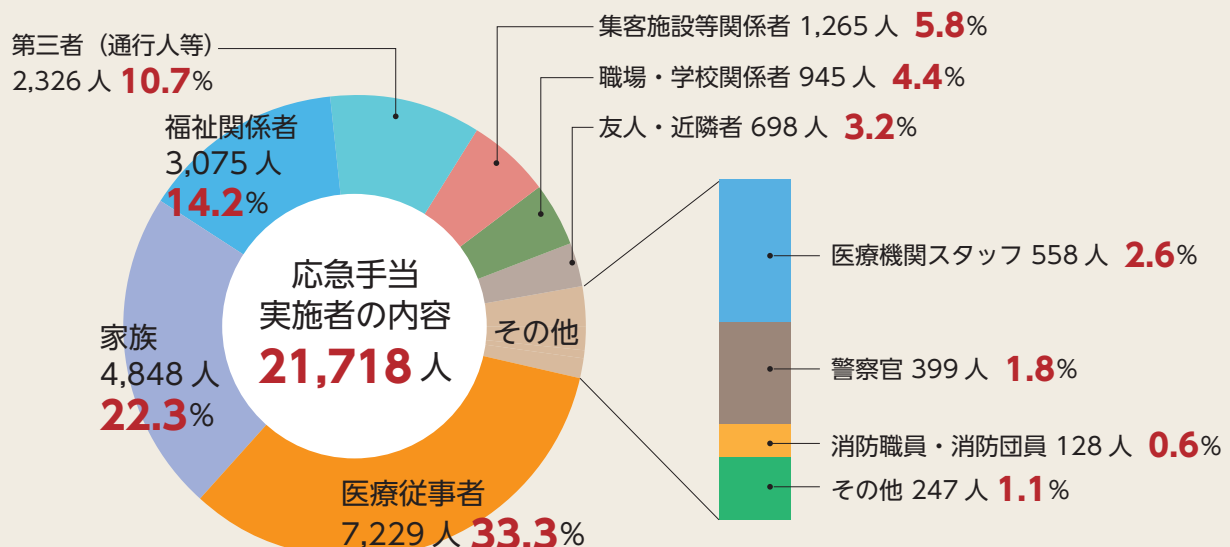
■ 図表1-3-17 都民等による応急手当の内容



(3) 応急手当実施者

都民等による応急手当を実施者別にみると、医療従事者に次いで家族が2番目に多くなっています。大切な人の命を救うために救命講習を受講しましょう。(図表1-3-18)

■ 図表1-3-18 応急手当実施者



4 「# 7119」 東京消防庁救急相談センターの現況



急な病気やけがをした際に、病院へ行くか、救急車を呼ぶべきか迷った時や、どこの病院に行ったらよいのか分からない時などに電話で相談を受け、緊急受診の要否や適応する診療科目、診察可能な医療機関等について相談者にアドバイスを行います。

救急車を呼ぶか迷ったときは「# 7119」をご利用ください。

(1) 受付状況

過去3年間の受付状況は次のとおりです。

令和6年は、歴代最多件数を記録しました。(図表1-3-19)

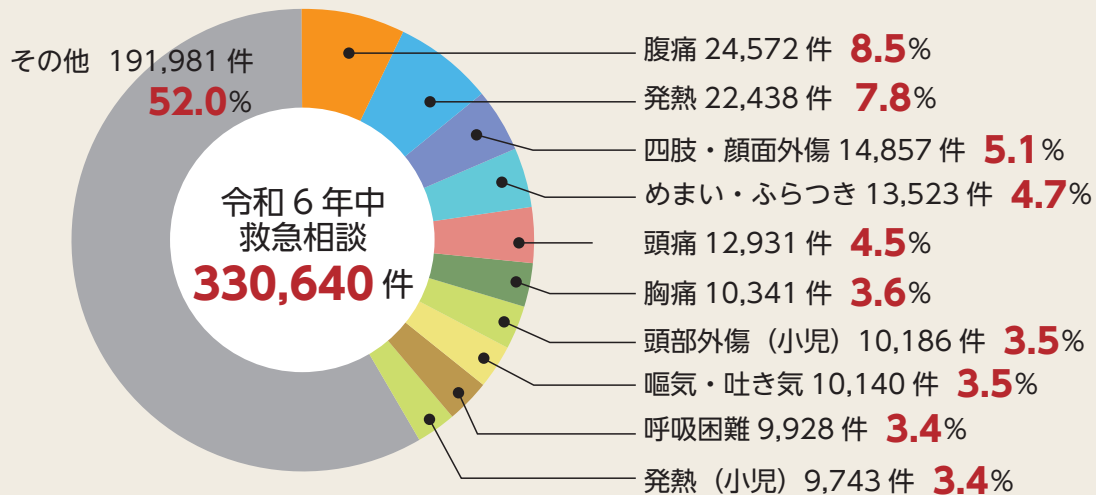
■ 図表1-3-19 受付状況

年次	総受付	医療機関案内	救急相談		相談前 救急要請	その他
				相談後救急要請		
令和6年	485,432件	148,230件	330,640件	63,633件	6,280件	282件
令和5年	467,267件	161,460件	303,102件	54,201件	2,269件	436件
令和4年	439,507件	175,822件	262,036件	42,674件	824件	825件

(2) 救急相談の内訳

令和6年中の救急相談の内訳は次のとおりです。腹痛に関する相談が最も多く、発熱に関する相談は成人と小児を合計し約11%を占めます。(図表1-3-20)

■ 図表1-3-20 救急相談の内訳比



(3) 相談対象者の年齢

令和6年中の相談対象者の年齢構成比は次のとおりです。0歳から14歳の相談対象者の割合が多くなっています。(図表1-3-21)

75歳以上の相談対象者の年齢構成比は

17.6%となっていますが、救急車で搬送した方の年齢構成比は75歳以上の方が全体の42.7%を占めています。(75ページ参照)

救急車を呼ぶか迷ったときは「#7119」をご利用ください。

■ 図表1-3-21 相談対象者の年齢構成比

